

照天姫のかがみ石

原田妙善寺の西、ヘルスセンター鑑石園（現在は老人ホーム）の庭の中に今もなお湧き続けている池には、遠く室町時代にまつわるラブロマンスが語り伝えられています…。

室町時代のラブロマンス

常陸国（今の茨城県のあたり）小栗城主判官
満重は応永二十年（一四二四年）関東管領足利
持氏の大军に城を囲まれました。

落城のとき、わずかの家来をつれて城をのがれた満重は途中、相模国（今の駿東郡小山町）の豪族横山大膳のところへ一時身をよせました。

昭和五十六年十月五日号



ある晩、大膳の策略によって家来を毒殺され、満重もまた危機を迎えました。しかし、大膳の館にいた照天姫に助けられた満重は、名馬鬼鹿毛に乗って姫と共に逃げたのです。そのころ、原田の妙善寺に大空禪師という

徳の高い僧がいました。

息も絶えだえの満重と姫は禪師の手あついで看護に一命をとりとめることができました。

絶世の美人照天姫は、この妙善寺にかくれている間、清らかな湧き水の中にある石に姿をうつして、身なりをととのえたということです。

以来「かがみ石」といわれるようになったのです。

やがて満重は小栗城を再興し照天姫とむつまじく暮らしました。

湧き水をみながら…

西村よしえさん(鑑石園)

この鑑石園の庭には湧き水の池が六つあるけど、かがみ石のある池は昔から干上がったこ

ともなく湧き続けているんだよ。池の中の黒くて丸い石が水鏡になつたんだね。

近頃は若い人も来るようになったよ。きれいな湧き水をみながら昔をしのぶのもいいものだと思うよ。

かがみ石

